かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
（0865）
電話 66−1311
FAX 66−1314

三 郡 分 教 会
昭和10年11月４日　設立

陽気ぐらしを目指して、たすけの輪を広げよう

今一手一つに、一歩一歩！

＊一教会、初席者一名以上
＊おさづけを身近に
＊百万件のにをいがけ

一人ひとりの信仰生活の充実　～プラスαを目指して～

＊教会に参拝し、おぢばの理を戴こう
＊心を込めておつとめをしよう

創立百三十周年記念祭並六代会長就任奉告祭
立教184年（2021年）10月24日 執行

立教184年
10・11
月号

秋季大祭講話

素直に、教えを信じ そして、実践しよう

大教会長様

立教184年大教会秋季大祭は10月21日、大教会長様祭主のもと役員・部内教会長・布教所長・よふぼく・信者ら多数の参拝のもと執り行われた。

大教会長様は、着任後、初めての秋季大祭に臨まれ、子供可愛い一条の親心から啓かれたこの教えを、素直に信じ、素直に実践したからこその笠岡の道であるとして、その変わらぬ親心に凭れて、明るく勇んでつとめる心構えを促された。講話内容は次の通り。

ただ今は、立教184年秋の大祭を、皆さんと共々に、陽気に勇んでつとめることができましたこと、誠にありがたくうれしく思わせていただきます。

ただ今から、秋の大祭をつとめること、また、コロナ禍にあって、3日後に迎える笠岡大教会の創立130周年記念祭並びに六代会長就任奉告祭をつとめること、このことについての意義についてお話ししたいと思います。（拍手）

▼子供可愛い一条の親心

私事ですが、今年7月3日に長男が生まれました。前会長である父が、記念祭を迎える旬に生まれたので、「初代の志」という意味で「初志（はつし）」と名付けてくれました。

子どもが生まれて3ヶ月、今、正に子育て中ですが、わが子の様子を毎日見ていると、本当に可愛くて可愛くて仕方がないんですね。泣き声が聞こえると、もう放っておけなくなって、ついつい抱っこをしに行ってしまったり、この子のためにどんなこともしてやりたい、そんな気持ちになります。

人間のをやである親神様も、我々人間＝子どものことを思ってくださる気持ちというのは、今の私と同じように、可愛くて仕方がない、どんなことでもしてあげたいと、そのように思ってくだされているのではないかと思います。

おさしづに、

人間幾何名の子でも可愛い。神も同じ事。（明22・10・21）

とあります。

親神様は、人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいと思召され、人間そしてこの世界をお創りくださいました。

旬刻限の到来を待って、天保9年10月26日、教祖をやしろとしてこの世の表にお現れになり、世界一れつをたすけるための、このだめの御教えをお始めになりました。

秋の大祭をつとめるに当たっては、この根本たるをやの思い――世界一れつをたすけて陽気ぐらしをさせてやりたい――この思いに、しっかりと立ち返らせていただきたい。

▼教えを素直に信じ、素直に実践する

このたびつとめる記念祭の意義について、真柱様は常々次のように仰います。――教会の設立当時の人々の気持ちを心に浮かべることが必要である。また、人の顔ぶれ・教会の建物と様子、時には場所が変わっても、変わってはならないのは教会に関わる人の心だ。

では、「変わってはならない人の心」とは何か、私なりに思案しました。

笠岡の道は上原家の信仰から始まります。上原家は、大阪で畳の商いをしていました。その中、明治13年の正月にこの道の話を聞き、それがきっかけとなって信仰が始まります。そして、信仰を始めて、上原家がどうなっていったか――商売は上手くいかなくなり店を畳むことになる。そして、一家離散。初代会長・上原さとさんの主人・佐助さんは東京に布教に行かれる。さとさんは舅姑の願いから笠岡の地に帰り、そしてここでの生活が始まります。そんな中で、この笠岡の地でにをいがけ・おたすけに励まれた。――そういう姿を見せられながらも、この道の信仰を止めなかった、信仰を続けることができたのは、私は、お道の教えが間違いないんだと素直に信じ、素直に実践した、素直におたすけに励んだ、この心を神様がお受け取りくださったからこそ、今に繋がる笠岡の道となったのだと、そのように思います。

▼元の神・実の神の変わらぬ親心

私は、子どもの出産に際し、今回、立会出産をし、その様子を妻の傍らで見ました。その様子を目の前で見て、私が強く感じたのは、先ず、子どもが無事に生まれてきてくれた喜び、そして、母親というのはこんなに大変な思

いをして子どもを産んでくれているという衝撃、そして感激、そして産んでくれた妻への感謝の気持ち。同時に、私自身もわが子と同じように母が産んでくれたんだと、あらためてそう思ったときに、母に対しての感謝の気持ちと、そして、この、子どもが生まれてくるのも、すべて親神様のお働きがあってのことと、わが子が生まれたことを通して、あらためて親神様のご守護・お働きということを強く感じました。

親神様が、人間創造のそのときから、子どもが可愛くて仕方なくて、何でもしてやりたいと、私たちのためにずっとお働き続けてくださっている。親神様のご守護というものは、何も変わってはいない。このことを強く感じたわけです。

▼いかなる中も、善きに導かれる親心

今、世界はコロナ禍にあって、なかなか思うようにならない、ままならない状況が続いていますが、この根本には、陽気ぐらしをさせてやりたい、たすけてやりたいとの親心がある。その思いからお見せくださるちょうど良い姿だと、私は思います。

子どもが可愛くて何でもしてあげたいと思っていたとしても、例えば、赤んぼうに対してなら、お乳をあげて、オムツを替えて、お風呂に入れて・・・、何でも、親はするでしょうが、成長していく子どもに対して、いつまでも、親が、その口に食べものを運んでやるでしょうか。それが親のなすことでしょうか。私はそうではないと思います。皆さんもそう思われるでしょう。

子どもの成人に応じて、その時旬にふさわしい、人間の成人に必要な与えを、親神様は、たすけてやりたい、陽気ぐらしをさせてやりたいとの思いから与えてくださっている。

コロナ禍にあっても、その親神様の思いを素直に信じ切ることができたなら、素直に実践することができたなら、喜びに気付けることがいっぱいあると思います。

実は先ほどの立会出産ができなかったかも知れませんでした。6月は岡山県は緊急事態宣言下でしたので、当然、病院での立会出産は叶いませんでした。宣言が解除され、7月になってから、もう立会出産ができるのかなと心配していました。

当初、出産予定日は7月9日でした。私は7月に会長になりましたが、7月10日から任命講習を受講しなければなりません。初産は、よく日にちが遅くなると聞いていましたので、果たして予定通りに生まれてくれるのかと心配しましたが、7月3日に生まれてきてくれて、5日間の入院生活を終えて退院してくる妻と子どもを迎えに行くこともでき、安心して講習会に向かうことができました。

コロナ禍にあって、できるのかできないのか、そんな状況だったからこそ、この立会出産で得た喜び・気付きというものが、より一層大きなものになったと思います。

今回の記念祭も、どうしても参拝者を制限せざるを得ませんでした。多くの方にはご参拝いただけませんが、せめて、その記念祭の様子をご覧いただけるように、今回はインターネットを通して動画で準備しています。パソコンやスマートフォンでアルファベットで「kasaoka」、数字で「1・3・0」と検索すると、記念祭当日の午後2時以降、記念祭の様子をまとめた動画と、記念祭に向かって作った『かさおかの道』の歌の動画、笠岡の歴史を綴った動画も、ご覧いただけるようになっています。

今回は、皆さんにご参拝いただくことは叶いませんが、心は一つに、この記念祭・奉告祭を共々につとめさせていただきたいと、こういった準備をしています。ご参拝いただけない方は、ぜひこの動画をご覧いただきたい。

最後になりますが、この記念祭は、ゴールではなく、次なる塚への向けての新たなスタートとなります。その新たなスタートを希望を持って、明るさを持って通りきれるように、記念祭のその日を喜びいっぱいに迎えられるよう、今、コロナ禍にあっても、どんな状況でもとにかく素直に教えを信じ、そして教えを実践すること、このことをお願いして、今日の私の話を終わります。

ありがとうございました。

（拍手）

笠岡大教会
創立百三十周年記念祭 並ニ 六代会長就任奉告祭 執行される
立教百八十四年十月二十四日

明治24年10月11日、上原さと様を初代会長として名称の理設立のお許しを戴いた笠岡大教会は、本年、創立130周年を迎えた。

昨年9月25日の事情お運びで「臨時祭典願」を願い出、願い出通り「創立百三十周年記念祭　立教百八十四年十月二十四日」の執行をお許し戴いた。

続いて、執行日を遡る3ヶ月前、本年7月26日の事情お運びで「任命願・臨時祭典願」を願い出、「六代会長上原明勇」、記念祭同日を期しての「六代会長就任奉告祭」の執行をお許し戴いた。

両事情お運びに備え、立教181年11月21日付で「創立百三十周年推進委員会」を発足、立教182年年頭に、三年千日活動を打ち出した（スローガン等は本誌巻頭に掲載）。

さらに、執行日までの準備を滞りなく進めるべく「記念祭実行委員会」を置いて、諸般の準備を進めたところ、去る10月24日（日曜日）、爽やかな秋晴れの下、お許し戴いた通りに記念祭・奉告祭が執行された。

なお、約2年にわたる〝新型コロナウィルス禍〟の影響で、真柱様お入り込みはご遠慮申し上げ、世話人・島村廣義先生が世話人巡教の礼式に則ってご参拝くだされた。

また、来賓は芦津大教会長様、玉島大教会長様ご夫妻をお招きし、おつとめ奉仕人以外の参拝者も、雅楽奉仕人・教会長夫妻・布教所長・当日ひのきしん者に制限した。

（※かさおか編集掛は本巻第12号で特集を組む予定）

修養科を終えて

上下分教会　日南住　結

私は、修養科で聞いた話の中で、今後の目標を三つ立てました。

一つ目は、人を喜ばせることです。私が一番印象に残った言葉は「人助けて我が身助かる」です。私のクラスでは、毎日授業の合間に、おさづけの取り次ぎを行っていました。だんだん、身上のある方から、ご守護をいただいたという話を聞き、人の助かりを願うことは素敵なことだなと思いました。私は修養科中に初席を運び、無事によう ぼくになりました。ようぼくになった時、私より周りの方が喜んでくれ、早速いろんな方におさづけをすることができ、人助けの素晴らしさを感じました。

二つ目は、当たり前に感謝することです。身の内は神様からのかしもの・かりものです。自分が意識しなくとも、十全の守護の働きによって、毎日生きることができています。

三つ目は、親神様と教祖から手を離さないことです。修養科中は、しんどいことがたくさんありました。毎日、神殿で参拝をすることで、今まで作業のように参拝をしていたのに、こんなにおつとめはありがたいものなのだなとだんだん気付くことができました。

天理教は親が信仰しており、私は今まで天理教について詳しくは知らなかったので、修養科で多くのことを勉強できました。私は事情から修養科を志願しました。どんな状態になっても、それまでの日々に価値があり、同じように悩んでいる人を、この先助けられるかもしれません。いつか、信仰することが一番の幸せへの近道であり、神様のおかげだと心から思える日が来るよう、これからも天理教と繋がっていたいと思います。

大教会だより

◎第九六一期修養科

自　立教184年7月1日
至　立教184年9月27日

＊教　養　掛

＊教　養　掛（㊟主任、㊞副主任）

一ヶ月目　㊟田　中　隆　之（大教会役員・福山分教会長）

㊞谷　本　　章（高丸分教会長）

二ヶ月目 ㊟中村剛史（久松分教会長）
㊞本多正悟（西伯分教会長）
三ヶ月目 ㊟上原繁次（大教会准役員・陶山分教会長）
㊞藤井保人（福東分教会長）

＊修了者

上下日南住結
陽備大教会長様
摩耶上原志郎
金浦前会長様
興明上原繁道
ひろさと前会長様
陶山門脇元教
芳井門脇元教
呉照田中隆之
海松ヶ岡前会長様
東悠中村剛
吸江田中隆之
照陽大教会長様
輝美濃中村剛
新山邑佐藤道孝
呰部前会長様
明石市中村剛
上下上原繁道
府中市大教会長様
東城前会長様
服部上原繁道
島中前会長様
驛家中村剛
葦陽大教会長様
湯田原上原繁道
備中上原繁道
神昭上原繁道
美之郷上原繁道
錦備大教会長様

◎教人資格講習会（全期）修了者

立教184年10月11日終講
高児島瀬良志郎

◎教会長資格検定講習会修了者

立教184年10月17日終講
福南掛谷善成

◎立教184年秋季大祭参拝

福山大教会長様
高屋大教会長様
神邉大教会長様
島根大教会長様
久松武内正美
鶴山門脇元教
弥高山田中隆之

◎教会名称の統合お預け

立教183年7月11日付
・久松――久津分教会
立教184年9月8日付
・大教会――油木分教会・笠晴分教会
・福山――福中分教会・福順分教会・福備分教会
・高屋――仲條分教会
・鶴山――鶴南分教会
・陽備――鴨方分教会
・輝美濃――輝華分教会
・上下――行縢分教会・清嶽分教会
・府中市――河面分教会・阿木行分教会・府鮮分教会

右の通り、15ヶ所の名称がお預け教会になったことにより、所属の布教所および教人・ようぼくは、立教185年1月31日時点で上級教会へ所属が変更されます。

なお、油木分教会部内の神免分教会は大教会直轄教会の扱いとなります。

◎名称録の訂正

・輝美濃分教会　FAX番号の変更
旧：058-251-5066（電話と同番号）
新：058-337-7102

川柳の好きな友人に出合った。幾つかの自作を見せてくれる。どれも面白い。「まあ、こんなん僕でも作れるわ」と思ってやってみた。ところが案外難しいもんや。結局一句も出来ない。またお道の陽気の道柳に投稿されているお二人と知りあう。なおさら出来ない。真面目なものは、なお苦手だ。しかし人には何か取り得が有るもの、私にはギターが有るじゃないか。先日21才の娘さんに何か楽しんでもらおうと、セリフ付きのド演歌の弾き語りを披露した。ディックミネの「雨の酒場で」だ。古い唄だなぁ。昔の人はディックミネを知っている。若い娘さんにようも恥ずかしげもなくようやるわ。しかし今は楽しんでもらうには、ギターと唄しかない。案外受けた！お世辞か？これからの残りの人生、ギターが楽しみ、頼りだ。（ひ）

九月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます 親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には 世界一れつをたすけたいとの思召から 旬刻限の到来と共に 教祖をやしろとして この世の表にお現れになり たすけ一条の道をつけて 陽気ぐらしへとお導き下さいます御慈愛の程は 誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は 日々 親の御心に添わせていただけるよう心がけ 持ち場立場の御用の上に勤め励ませていただいております

その中にも 今日の吉日は これの笠岡にお許し下された御祭り日でございますので ただ今から おつとめ奉仕人一同 喜び感謝とたすけ心も一入に 明るく陽気に勇んで 九月の月次祭を執り行わせていただきます 本日はコロナ禍の現状を鑑み おつとめ奉仕人のみで勤めさせていただく月次祭となりましたが インターネットを用いてオンライン配信をさせていただいています 離れた場所からでもおつとめ奉仕人と心は一つに 皆のたすかりを願う真実の状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて 今月は かねてから進められていた教会統合の動きが一区切りとなり この度 十四の名称を御本部にお返し致しました このことを ただ寂しい 悲しい 申し訳ないと言う思いで終わらせるのではなく 統合をきっかけにそれぞれの教会がより勇み立ち 喜び一杯の姿をお見せいただけるように 精一杯 教会へつながるようぼく信者の修理丹精に勤めさせていただきたいと存じます

また いよいよ来月 十月二十四日には笠岡大教会創立百三十周年記念祭並びに六代会長就任奉告祭が執り行われます 残り一月となった記念祭 奉告祭に向けての成人の歩みを 最後までしっかりと進めさせていただく所存でございます

何卒 親神様には どんな状況の中でも 親の御心に添いきるべく たすけ一条に邁進する 皆の誠真実の心をお受取り下さいまして コロナ禍が終息し 神人和楽の陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十四年 九月月次祭 祭典役割表

祭主	大教会長様
扉者	中村道徳
	武内清明

講話	（中止）

賛者	赤木素志
	三代温生
指図方	上原繁道

十一月講話	吉岡誠一郎

役割＼区分	坐り勤	前半	後半
地方	吉岡壽	佐藤道孝	上原志郎
	中村道徳	今川昌彦	森本忠善
	上原繁次	山田敏教	渡邉隆夫
おつとめをどり	大教会長様	門脇元教	大教会長様
	前会長様	岡﨑真一	中島誠治
	上原繁道	吉岡誠一郎	山野弘実
	大教会奥様	武内正美	門脇加津
	前奥様	岡﨑和美	横山小智榮
	田中ますみ	吉岡八恵	山野なつ
笛	淺野明教	佐藤真孝	杉原善朗
ちゃんぽん	中村剛	武内清明	内海史郎
拍子木	上原志郎	横山逸郎	高木昭祥
太鼓	三島渉	淺野明教	上原繁次
すりがね	杉原博之	虫明立生	岡田誠
小鼓	上原浩	赤木素志	三代温生
琴	上原順子	内海安子	岡﨑豊子
三味線	佐藤香苗	中村初美	田中つかさ
胡弓	今川佐智子	三島照美	高木孝子

秋季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます 本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代会長上原伊助大人光刀自の神霊 三代会長上原繁雄大人くにる刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人朝子刀自せい子刀自の神霊 歴代会長と共に笠岡の道の上に真実を尽くされた役員 部内教会長 教人 よふぼく 信者の神霊 諸々の神霊の前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

祖霊様方には 親神様の妙なるお導きにより お道の人となられ 思召に添う陽気ぐらし世界の実現の為にたすけ一条に邁進されました 今日の結構な笠岡の道の姿があるのも 祖霊様方が真実を尽くして下されたお陰と 日々は朝夕に御礼を申し上げると共にたすけ一条の上に勤め励ませて頂いております

その中にも 本日は秋の霊祭を執り行う日柄でございますので 御前に海川山野の旬の物を供え 只今はおつとめ奉仕人一同 親神様の御前にてをどりをつとめさせていただきました 続いて 祖霊様方の在りし日を偲び 御遺徳を称え お礼申し上げる皆の真実の姿をご覧下さいまして 祖霊様方には 御心 お安め下さいますようお願い申し上げます

さて 現在 世界はコロナ禍のさなかにありますが いよいよ来月には 笠岡大教会創立百三十周年記念祭並びに六代会長就任奉告祭の日を迎えます 参拝者の数を制限するなど 従来通りの開催は叶いませんが こうした姿も 陽気ぐらしをさせたいとの親心からお見せいただく姿だと受け止め 残り一月「陽気ぐらしを目指して たすけの輪を広げる」べく 今 できる 精一杯の御用とおたすけに励ませていただく所存でございます

何卒 祖霊様方には 苦しい状況の中でも親を慕い その思いを受け止めたすけ一条に邁進する皆の状をご覧下さいまして より一層 笠岡のたすけの道が延び広がりますよう お力添えの程を 一同と共に 慎んでお願い申し上げます

立教百八十四年 秋季霊祭 祭典役割表

祭主	大教会長様
扈者	今川昌彦
	吉岡誠一郎

賛者	淺野明教
	岡田誠
指図方	門脇元教

役割＼区分	前半	後半
地方	前会長様	上原浩
	三島涉	虫明立生
	佐藤真孝	杉原善朗
おつとめ	大教会長様	上原志郎
	上原繁道	中村道徳
	門脇元教	武内清明
	大教会奥様	武内正美
	上原順子	岡﨑豊子
	田中つかさ	横山小智榮
笛	岡﨑真一	上原繁次
ちゃんぽん	佐藤道孝	高木昭祥
拍子木	中島誠治	横山逸郎
太鼓	山野弘実	森本忠善
すりがね	杉原博之	山田敏教
小鼓	今川昌彦	赤木素志
琴	前奥様	門脇加津
三味線	吉岡八恵	笹尾一美
胡弓	山野なつ	岡﨑和美

秋季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます
　親神様には 世界一れつをたすけたいとの思召から 天保九年十月二十六日 旬刻限の到来と共に 教祖をやしろとしてこの世の表にお現れになり よろづ委細の真実を明かし たすけ一条の道をつけて 陽気ぐらしへとお導き下さいます御慈愛の程は 誠に有難く勿体ない極みでございます　私共は 届かぬながらも御恩報じを念じて 日々勇んでたすけ一条の上に 努め励ませていただいております
　その中にもこの月は この道をお始め下されました尊い月でございますので ただ今からおつとめ奉仕人一同 立教に込められた親の御心に思いを致し明るく陽気に勇んで 座りづとめ てをどりをつとめて 秋の大祭を執り行わせていただきます　御前には 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供たちが 日頃のご高恩に改めて御礼申し上げると共に 更なる成人をお誓い申し上げる真実の状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
　さて 今月は大祭の月として 直轄教会に大祭参拝をさせて頂き 秋の大祭とこの度の記念祭とをつとめる意義の周知徹底を図りました　また 記念祭に向かっては 十月とは思えぬような暖かさの中 大勢の方が大教会に寄り集い 準備のひのきしんに真実の汗を流しました　この勇んだ姿により なお一層勇み立ち 心を一つに揃えて いよいよ三日後に迫りました笠岡大教会創立百三十周年記念祭並びに六代会長就任奉告祭を 喜びの姿で迎えさえて頂きたいと存じます
　何卒 親神様には どんな中でも親の思いにお応えするべく たすけ一条に邁進する 皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして コロナ禍が終息し 神人和楽の陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十四年 秋季大祭 祭典役割表

祭主	大教会長様
扈者	門脇元教
	上原志郎

講話	大教会長様

賛者	上原浩
	吉岡誠一郎
指図方	上原繁道

十二月講話	佐藤道孝

役割／区分	坐り勤	前半	後半
地方	吉岡壽	佐藤道孝	上原志郎
	中村道徳	今川昌彦	森本忠善
	杉原善朗	山田敏教	渡邉隆夫
おつとめ	大教会長様	門脇元教	田中隆之
	前会長様	谷内伸自	中島誠治
	上原繁道	吉岡誠一郎	山野弘実
	大教会奥様	武内正美	門脇加津
	前奥様	谷内美知子	横山小智榮
	今川佐智子	吉岡八恵	山野なつ
てをどり			
笛	浅野明教	佐藤真孝	杉原善朗
ちゃんぽん	杉原博之	武内清明	内海史郎
拍子木	中村剛	横山逸郎	高木昭祥
太鼓	三島渉	岡﨑真一	上原繁次
すりがね	岡﨑真一	虫明立生	岡田誠
小鼓	上原浩	赤木素志	三代温生
琴	上原順子	岡﨑豊子	高木孝子
三味線	佐藤香苗	中村初美	室悦子
胡弓	内海安子	三島照美	田中つかさ